

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、 「課題研究」による代替措置

市山 雅美*

Periods of integrated studies (*sogotekina gakushuno jikan*) and the substitution for them by project studies (*Kadai Kenkyu*) in vocational high schools

Masami ICHIYAMA*

Abstract:

In vocational departments in high schools, periods of integrated studies (*sogotekina gakushuno jikan*) can be substituted by project studies as a vocational subject (*kadai kenkyu*) according to the regulations of the course of study in Japan.

I attempt to analyze these substitutions and periods of integrated studies in the vocational high schools by survey of the curriculums.

The majority of the vocational high schools substitute project studies for periods of integrated studies. But most of others set up both of project studies and periods of integrated studies. Commercial high schools more often set up the two than other vocational high schools. In some prefectures all vocational high schools set up periods of integrated studies but in other prefectures none of the vocational high schools do.

KEY WORDS : vocational high school, agricultural high school, technical high school, commercial high school, periods of integrated studies, project studies, curriculum, curriculum management

要旨:

高校の専門学科では、専門教科の科目「課題研究」で、「総合的な学習の時間」を代替できると、学習指導要領で規定されている。この代替規定の実施と専門高校での「総合的な学習の時間」設置の実態について、農業・工業・商業の各専門高校の教育課程を収集し分析を行った。

過半数の専門高校では、「課題研究」で「総合的な学習の時間」を代替しているが、「課題研究」にも時間をとりつつ、「総合的な学習の時間」を確保している学校も多い。商業高校では、「総合的な学習」の設置率が高い。商業科を設置している高校の場合、普通科併設校がもっとも「総合的な学習」設置率が高く、商業科単独校がそれに続き、他の専門学科との併設校は、設置率が低い。また、県によって、専門高校の「総合的な学習」の設置率には大きな差が見られる。

キーワード : 専門高校 農業高校、工業高校、商業高校、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、課題研究、教育課程、カリキュラム・マネジメント

1. はじめに

1. 1. 本論文の視座と目的

本論文では、専門高校における「総合的な学習の時間」(2018年度入学生まで)、「総合的な探究の時間」(2019年度入学生から)(以下、総称して、「総合的な学習」とする)の設置の実態、「課題研究」による「総合的な学習」の代替措置の状況を明らかにすることを目的とする。

現在、学習指導要領¹⁾においては、「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で

組み立てていくこと」などを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていく」「カリキュラム・マネジメント」が求められている²。また、「各教科・科目等について相互の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること」³に関して、「個々の指導計画は、各教科・科目等それぞれにおける固有の目標の実現を目指すと同時に、他の各教科・科目等との関連を十分図るように作成される必要がある。」「そのためには、各教科・科目等の相互の関連を図り、各教科・科目等との間の不要な重複を避け、指導の要点を明確にすることが必要である。」と論じられている⁴。

学習指導要領では、専門学科においては、農業等の各教科の「課題研究等の履修により、総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合においては、課題研究等の履修をもって総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができる」とされている⁵。これは、「総合的な学習」が導入された際の 1998 年要領から存在する規定で、ある意味、教科等との関連を図り重複を避けるカリキュラム・マネジメントの考え方の萌芽が見られるといつてよい。

第 4 章第 1 節で述べるとおり、多くの専門高校では、学習指導要領の規定に基づき、「課題研究」をもって「総合的な学習」を代替している（以下、「代替措置」とする）が、一方で、「課題研究」を設置しつつも、「総合的な学習」を設置している高校も少なくない。「課題研究」を設置しつつ「総合的な学習」も設置するかどうかという判断は、学校の教育方針や学校の教育活動全体を踏まえてのもので、これについて考究することは、現在求められているカリキュラム・マネジメントの研究にも資すると思われる。

限られた授業時間数の中で、「代替措置」を取らずに「総合的な学習」の時間を置くということは、「総合的な学習」に積極的な意味を見出していると考えられる。専門学科における「総合的な学習」の意味を明らかにすることは、「総合的な学習」全体の意義を明らかにすることにつながっていくと思われる。

これら 2 点を今後の課題として見据えつつ、本論文では、その前提として、専門高校における「総合的な学習」の設置と「代替措置」の実態を明らかにすることを目的とする。

本論文では、専門高校のうち事例数が多い、農業高校、工業高校、商業高校（以下、農業、工業、商業の各専門高校、学科、教科を総称するとき、農・工・商とする）を調査対象とする。

1. 2. 先行研究の状況

文部科学省の「教育課程の編成・実施状況調査」（平成 27 年度入学者）では、「総合的な学習の時間の実施状況」についても調査が行われている⁶。以下、専門学科の部分のみ抜き出して引用する。

表 1：「学年別の実施状況」

全学年で実施	1・2 年次で実施	2・3 年次で実施	1・3 年次で実施	1 年次のみで実施	2 年次のみで実施	3 年次のみで実施	小計	特例等
13.8%	1.6%	2.2%	1.5%	0.6%	0.4%	2.6%	22.8%	77.2%

表 2：「総合的な学習の時間」の単位数

2 単位	3 単位	4 単位	5 単位	6 単位以上	小計	特例等
1.9%	24.6%	1.4%	0.1%	0.1%	28.0%	72.0%

この調査では、「代替措置」については、「研究開発学校やスーパーサイエンスハイスクールなど教育課程の特例を認められており、総合的な学習の時間を実施していない場合及び専門学科において課題研究等で全部代

¹以下、学習指導要領に言及するときは、『高等学校学習指導要領』（平成 21 年告示）を「2009 年要領」、『高等学校学習指導要領』（平成 30 年度告示）を「2018 年要領」のように略記する。学習指導要領の解説についても同様。

² 2018 年要領、4 ページ。なお、学習指導要領および同解説のページ数は、文部科学省ウェブサイト収録のものによった。

³ 同上、14 ページ。

⁴ 2018 年要領解説 総則編、98 ページ。

⁵ 2018 年要領、11 ページ。これについては第 2 章第 4 節で詳述する。

⁶ 文部科学省「平成 27 年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」（文部科学省ウェブサイト、http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/_icsFiles/afieldfile/2019/02/12/1413569_002_1.pdf）。

替している場合は、「特例等」に計上している」とあり、一部代替については言及がない。

また、表 2 のように、「総合的な学習」の「単位数」については、「1 単位」というカテゴリーがない。実際には、後述の表 8 のとおり、専門学科で「総合的な学習」を実施する場合、1 単位のみ「総合的な学習」を実施し、あとの 2 単位は「課題研究」で代替するという、一部代替の例がかなり見られるが、その点は、この調査では不明となっている。

さらに、「特例等」が、「学年別の実施状況」の表では 77.2%である一方、「単位数」の表では 72.0%と、「特例等」の数値が異なっている点も判然としない。「総合的な学習」が 1 単位の場合の取り扱いなどが関係しているとも推測される。

他の先行研究でも、「授業（教職科目—引用者）で聞いてみたところ、工業高校出身者のほとんどは、「総合的な学習の時間」ではなく、「課題研究」を履修していた」と述べるにとどまっていたり⁷、「専門高校においては、総合的な学習の時間は「課題研究」との代替が可能なため、……中略……総合的な学習の導入には消極的な面がある」と言うにとどまっていたりしている⁸。また、後者の研究で取り上げられている専門高校の事例は、「課題研究」で行われているインターンシップであり、「課題研究」と「総合的な学習」の差異に着目しているとは言えない。

水産科については、「総合的な学習」の設置状況、「代替措置」の状況についての調査があるが⁹、管見の限り、専門高校全体の傾向を調査したものは見られない。

2. 「総合的な学習」、「課題研究」、および「代替措置」の規定

「課題研究」、「総合的な学習」、および「代替措置」について、多少煩雑になるが、「総合的な学習の時間」について 2018 年度入学生まで適用されていた 2009 年要領と、「総合的な探究の時間」について 2019 年度入学生から適用されている 2018 年要領の両方について論じる。

2. 1. 「総合的な学習」の目標・内容

2009 年要領では、「総合的な学習の時間」の目標は、以下のように規定されている¹⁰。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。

2018 年要領では、「総合的な探究の時間」の目標は、以下のように規定されている¹¹。

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

⁷ 渡邊幸雄、鈴木浩、萩野元彦「工業高校における「総合的な学習の時間」の代替としての「課題研究」の成果と課題 —宮城県古川工業高等学校化学技術科における事例をもとに—」『東北工業大学教職研究紀要』第 3 号、2018 年、9 ページ。

⁸ 西尾克明、南澤信之、山崎保寿「総合的な学習の時間のカリキュラム開発を促進する条件 —高等学校における普通科進学校と専門高校の事例分析を通して—」『信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 教育実践研究』第 2 号、2001 年、83 ページ。

⁹ 水産科については、「全て課題研究で代替」18 校、「一部課題研究で代替」13 校、「総合学習の時間の新設」4 校、「その他」4 校という調査がある。（宮繁啓司「水産・海洋教育の特色を生かした総合的な学習・課題研究の時間における学習活動の成果が期待できる創意工夫はいかにあるべきか」『全国高等学校水産教育研究会 研究彙報』第 43 号、2004 年、44 ページ）。

¹⁰ 2009 年要領、292 ページ。

¹¹ 2018 年要領、641 ページ。

- (2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

なお、2009年要領、2018年要領とも、内容については、「各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習（探究）の時間の内容を定める。」とされ¹²、標準単位数は3～6単位とされている¹³。

2. 2. 「課題研究」の目標・内容

農・工・商など各専門教科に設置されている課題研究については、各教科で若干の差異はありつつも、目標・内容はおおむね共通する点が多い。〈以下、〔／／〕の部分は、農・工・商の教科でそれぞれで異なる部分を示す〉

○目標について

2009年要領では、以下のように規定されている¹⁴。

〔農業／工業／商業〕に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。

2018年要領については、以下のようにまとめられる¹⁵。

表3：2018年要領「課題研究」の目標

農業	の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、	社会を支え産業の	発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
工業		ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な	
商業			

- | | | | | | | | | | |
|-----------------------|--|-----------------------|-------------|---|---|----------------------|------------|------|--------|
| (1) | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">農業</td> <td rowspan="3" style="width: 25%;">の各分野について</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">_____</td> <td rowspan="3" style="width: 50%;">体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。</td> </tr> <tr> <td>工業</td> <td></td> </tr> <tr> <td>商業</td> <td style="text-align: center;">実務に即して</td> </tr> </table> | 農業 | の各分野について | _____ | 体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 | 工業 | | 商業 | 実務に即して |
| 農業 | の各分野について | _____ | | 体系的・系統的に理解するとともに、相互に関連付けられた技術を身に付けるようにする。 | | | | | |
| 工業 | | | | | | | | | |
| 商業 | | 実務に即して | | | | | | | |
| (2) | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">農業</td> <td rowspan="3" style="width: 30%;">に関する課題を発見し、</td> <td style="width: 20%;">農業や農業関連産業</td> <td rowspan="3" style="width: 45%;">に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。</td> </tr> <tr> <td>工業</td> <td>工業</td> </tr> <tr> <td>ビジネス</td> <td>ビジネス</td> </tr> </table> | 農業 | に関する課題を発見し、 | 農業や農業関連産業 | に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 | 工業 | 工業 | ビジネス | ビジネス |
| 農業 | に関する課題を発見し、 | 農業や農業関連産業 | | に携わる者として解決策を探究し、科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。 | | | | | |
| 工業 | | 工業 | | | | | | | |
| ビジネス | | ビジネス | | | | | | | |
| (3) | <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td rowspan="3" style="width: 35%;">課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、</td> <td style="width: 20%;">農業の振興</td> <td rowspan="3" style="width: 20%;">や社会貢献</td> <td rowspan="3" style="width: 25%;">に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。</td> </tr> <tr> <td>工業の発展</td> </tr> <tr> <td>ビジネスの創造と発展</td> </tr> </table> | 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、 | 農業の振興 | や社会貢献 | に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | 工業の発展 | ビジネスの創造と発展 | | |
| 課題を解決する力の向上を目指して自ら学び、 | 農業の振興 | | や社会貢献 | | | に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 | | | |
| | 工業の発展 | | | | | | | | |
| | ビジネスの創造と発展 | | | | | | | | |

○内容について

内容については、農・工・商によって順番は異なるが、〔指導項目〕として以下のものが挙げられている（2018年要領のものを挙げたが、2009年要領もほぼ同様）。

- ・調査、研究、実験
- ・〔作品製作等／作品製作、製品開発／作品制作〕
- ・産業現場等における実習

¹² 2009年要領、292ページ、2018年要領、641ページ。

¹³ 2009年要領、2ページ。2018年要領、7ページ。

¹⁴ 以下、「課題研究」の目標・内容は、2009年要領、106ページ（農業）、136ページ（工業）、187ページ（商業）参照。

¹⁵ 以下、「課題研究」の目標・内容は、2018年要領、271～272ページ（農業）、327～328ページ（工業）、420～421ページ（商業）参照。

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、「課題研究」による代替措置（市山）

- ・職業資格の取得
- ・学校農業クラブ活動（農のみ）

そして、「次の事項に配慮する」とされている。下線部は2018年要領で新しく追加された部分である。

ア 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて、〔指導項目〕の(1)から〔(5)/(4)/(4)〕までの中から、個人又はグループで〔農業／工業／商業〕の各分野に関する適切な課題を設定し、主体的かつ協働的に取り組む学習活動を通して、専門的な知識、技術などの深化・総合化を図り、〔農業／工業／ビジネス〕に関する課題の解決に取り組むことができるようにすること。（以下略）

イ 課題研究の成果について発表する機会を設けるようにすること。

また、2009年要領、2018年要領とも「各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い」では、農・工・商とも、「課題研究」は「原則として全ての生徒に履修させること。」と規定され¹⁶、農・工・商各教科の学習指導要領解説では、「課題研究」は、「高学年」（2009年要領）・「卒業年次」（2018年要領）で履修させることが望ましいとされている¹⁷。それは、中央教育審議会答申の「基礎的科目において各教科に関する基礎的・基本的な内容を理解させ、それを基盤として専門的な学習につなげ、「課題研究」等で更に専門的な知識・技術の深化、総合化を図るという現行の考え方を継続し¹⁸という点を踏まえたものと言える。

単位数については、学習指導要領では、「学習指導要領に挙げられた専門教育に関する各教科の科目」（「課題研究」も含まれる）については、「設置者の定めるそれぞれの標準単位数を踏まえ」「その単位数について適切に定める」と規定されている¹⁹。つまり、「課題研究」の単位数は、都道府県（以下、都道府県を「県」とする）立高校であれば、各県の教育委員会が定めることとなる。たとえば、高知県では、「高知県立高等学校における主として専門学科において開設される各教科・科目の標準単位数の定め」（平成23年教育委員会告示）²⁰によって、農業科の「課題研究」は2～6単位と規定されている。おおむね各県とも、標準単位数は、農・工・商とも、最低は2単位で、上限は4単位あるいは6単位がほとんどである²¹。なお、2018年要領の解説では、農業では3～6単位、工業・商業では、2～4単位「程度履修されることを想定し内容を構成している」と書かれている²²。

2. 3. 「総合的な学習」と「課題研究」の目標の共通点と相違点

以下、2009年要領と2018年要領について、「総合的な学習」と「課題研究」の目標の共通点と相違点について整理する。

表4：2009年要領「総合的な学習の時間」と「課題研究」の目標の比較
主な共通点

「総合的な学習の時間」	「課題研究」
よりよく問題を解決する資質や能力	問題解決の能力
主体的、創造的……に取り組む態度	自発的、創造的な学習態度

¹⁶ 2009年要領、134ページ（農業）、185ページ（工業）、204ページ（商業）。2018年要領、324ページ（農業）、416ページ（工業）、454ページ（商業）。

¹⁷ 2009年要領解説 農業編、161ページ。2018年要領解説 農業編、161ページ。（工業、商業も同様）。

¹⁸ 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」2016年。

¹⁹ 2009年要領、2～3ページ。2018年要領、7ページ。

²⁰ https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/311701/files/2011022100355/2011022100355_www_pref_kochi_lg_jp_uploaded_attachment_43739.pdf

²¹ 各校の教育課程表に、各科目の標準単位数が書かれている場合があり、それを参照した。なお、東京都の工業の課題研究の標準単位数は「3単位」とされているようだ。

²² 2018年要領解説 農業編、29ページ。同 工業編、25ページ。同 商業編29ページ。

主な相違点

「総合的な学習の時間」	「課題研究」
自ら課題を見つけ	〔農業／工業／商業〕に関する課題を設定し
横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して	――
自ら学び、自ら考え、主体的に判断し	――
学び方やものの考え方を身に付け	専門的な知識と技術の深化を図る
協同的に取り組む態度	――
自己の在り方生き方を考える	――

表5：2018年要領「総合的な探究の時間」と「課題研究」の目標の比較

主な共通点

「総合的な探究の時間」	「課題研究」
よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力	課題を発見し、……解決策を探求し 課題を解決する力
実社会や実生活と自己との関わり	〔農業や農業関連産業／工業／ビジネス〕に携わるものとして
まとめ・表現することができるようにする (探求に) 主体的・協働的に取り組む	課題研究の成果について発表する(「内容」より) (社会貢献などに) 主体的かつ協働的に取り組む
よりよい社会を実現しようとする	社会を支え産業の発展を担う(農・工)、地域社会をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う(商) 〔農業の振興や社会貢献／工業の発展や社会貢献／ビジネスの創造や発展〕に……取り組む

主な相違点

「総合的な探究の時間」	「課題研究」
探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して	〔農業／工業／商業〕の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して
自ら考え	自ら学び
主体的に判断し	――
自己の在り方生き方を考えながら	職業人として
課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け	課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化を図る
課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解する	――
自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して	解決策を探求し、科学的な根拠に基づいて
互いのよさを生かしながら	――
新たな価値を創造し	(課題を) 創造的に解決する

このように、「総合的な学習」と「課題研究」の目標の共通点について述べたのは、次節で述べるように、「代替措置」には、「課題研究等」を履修した成果が総合的な探究の時間の目標等からみても満足できる成果を期待できることが必要」とされている²³からである。

2. 4. 「課題研究」による「総合的な学習」の代替措置

高等学校でも、小学校・中学校と同様、「総合的な学習」は必修となっている。しかし、専門学科においては、以下の規定のように、「課題研究」による代替で、「総合的な学習」を設置しないで済む場合もある。2018年要領では、以下のように規定されている(2009年要領でもほぼ同様)。

職業教育を主とする専門学科においては、総合的な探究の時間の履修により、農業、工業、商業、水

²³ 2018年要領解説 総則編、79ページ。

産、家庭若しくは情報の各教科の「課題研究」、看護の「看護臨地実習」又は福祉の「介護総合演習」（以下「課題研究等」という。）の履修と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な探究の時間の履修をもって課題研究等の履修の一部又は全部に替えることができること。また、課題研究等の履修により、総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合においては、課題研究等の履修をもって総合的な探究の時間の履修の一部又は全部に替えることができること²⁴。

学習指導要領では、まず先に「総合的な学習」による「課題研究」の代替について述べ、その後に、「課題研究」による「総合的な学習」の代替（本論文でいう「代替措置」）について述べている。文部科学省の方針としては前者の方がより望ましいということなのかとも思われるが、多くの専門高校は後者の措置を取っている。理由の一つとしては、「課題研究」は1989年要領から設置され、「総合的な学習」は1998年要領による設置と、「課題研究」の方が早かったということが挙げられるのではないかと。前者の「総合的な学習」による「課題研究」の代替を行っているという明確な例は、今回の調査では、秋田市立秋田商業高等学校の1件しか発見できなかった²⁵。

「課題研究」による「総合的な学習」の代替については条件があり、「総合的な探究の時間の履修と同様の成果が期待できる場合」と限定している。2018年要領の解説では、「例えば、「課題研究等」を履修した成果が総合的な探究の時間の目標等からみても満足できる成果を期待できることが必要であり、自動的に代替が認められるものでない。」としている²⁶。

今回の研究で資料として用いた各学校の教育課程表（第3章参照）には、「総合的な学習の時間」は「課題研究」にて代替する、一部代替の場合、「総合的な学習の時間」2単位は「課題研究」2単位で代替する。」などと記述されている場合もある。本論文では、教育課程表に「代替措置」について明示していない場合も、「総合的な学習」がない場合、あるいは1・2単位の場合は、「代替措置」が行われていると見なした。

この「課題研究」による「総合的な学習」の代替の規定については、「総合的な学習」設置当初の1998年要領から変わっていない。ただし、「課題研究」の「内容」の一つである「資格取得の取得」についての取り扱いは大きく変わって来ている。

2009年要領の解説では、「調査、研究、実験」などに言及した後、「職業資格等の取得」においては、「将来の進路を踏まえた職業資格の取得に取り組むなど、総合的な学習の時間の目標である「よりよく問題を解決する能力を育成する」とことや「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」ことに資する学習活動を行う場合が考えられる。」と述べており²⁷、2009年要領の時点では、「職業資格等の取得」は「総合的な学習」の目標に合致しているとされていた。しかし、2018年要領の解説では、「職業資格の取得を主目的とした学習活動などについては、生徒が自己の在り方生き方を考えながら自分で課題を発見し、探究の過程において考えるための技法を自在に活用し²⁸、成果のまとめや発表を行う総合的な探究の時間の趣旨に照らしてふさわしくないことは言うまでもない。」と述べている²⁹。

²⁴ 2018年要領、11ページ。

²⁵ 同校「2019年度教育課程表」には、「商業・課題研究」は総合的な学習の時間で代替」と記載され、「課題研究」の全ての単位を「総合的な学習」3単位で代替している。内容については、第4章第6節参照。他には、石川県立七尾東雲高等学校の総合経営学科は、「課題研究」がなく「総合的な学習」が3単位設置されている。ただし、代替についての記述はない。

なお、表7のとおり、農・工・商業高校で、「総合的な学習」が1・2単位の学校（単位上は「課題研究」の一部の代替が可能）は78校、総合的な学習が3単位以上の高校（単位上は「課題研究」の全ての代替が可能）は20校ある。

²⁶ 2018年要領解説 総則編、79ページ。

²⁷ 2009年要領解説 総則編、44ページ。

²⁸ この点について、資格取得が「総合的な学習」の趣旨にそぐわないのかについては、さらなる検討が必要であろう。「高校生にとって資格取得や検定合格は、大きな自信となり、向上心と学ぶ意欲を喚起し、生涯にわたって学び続ける力を育てることにつながります。」との意見もある（全国工業高等学校長協会の事務局長の発言）「資格・知識への挑戦と意欲 ジュニアマイスター顕彰制度」『教育新聞』ウェブサイト2018年10月15日付（https://www.kyobun.co.jp/feature1/pf20181015_17/）。

²⁹ 2018年要領解説 総則編、80ページ。

「総合的な学習」の設置当時の議論としても、「代替措置」を取る場合、「「自己の在り方生き方を考えることができるようにする」の部分の問題となる」と指摘されている³⁰。現場サイドからも、「課題研究から総合的な学習の時間への安易な代替におちいる危険」として、「課題研究は、現在他校の様子を聞くと調査、実験、研究よりも職業資格の取得にシフトしている傾向がある³¹。そのように職業資格の取得にシフトした内容の課題研究が総合的な学習の時間に代替されるとすれば、総合的な学習の時間の特長とも言うべき他教科教師との連携、自ら課題を見つけ、自ら学び考え・・・ということは、期待ができないと考える」との指摘もある³²。

しかし、現状では、「1学年の「総合的な探究の時間」を「課題研究」1単位で代替履修する。」としながら、その「課題研究」の内容が実質的には「三種危険物取扱責任者」の資格取得の対策となっている学校もある（ただし、目標としては、「農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。」となっている）³³。

3. 調査の方法——対象の選定と分析に用いるデータ

調査対象校としては、全国の農業高校、工業高校、商業高校で、公立の全日制に限定した。対象校の選定には、全国農業高等学校長協会、全国工業高等学校長協会、全国商業高等学校長協会ウェブサイトの会員校一覧を利用し³⁴、学校名に、「農業高等学校」（農林、園芸、農芸高等学校なども含めた）、「工業高等学校」（工科高等学校なども含めた）、「商業高等学校」と付くものを選定した。比較のため、商業科については、商業高校（単独校）に加え、普通科と併設されている商業科（商業科普通科以外の学科も併設されている高校—例えば、商業科と農業科と普通科が設置されている高校—も含む）、あるいは、他の専門学科と併設されている商業科（例えば、商業科と農業科が設置されている高校—普通科も併設されている高校を除く）についても対象に加えた。これについても、全国商業高等学校長協会ウェブサイトの会員校一覧の学科の欄を参照した。

それらの高校の教育課程を、各高校の公式ウェブサイトを通じ可能な限り収集した。年度については学校により様々で、おおそ平成28年度入学者から令和2年度入学（予定）者対象の教育課程まで幅があるが、極力最新のものを収集した³⁵（そのため、「総合的な学習の時間」のものとは「総合的な探究の時間」のものがあるが、本研究では、その点は考慮に入れなかった）。

データ項目としては、「総合的な学習」の設置の有無、履修学年、単位数、「課題研究」の履修学年、単位数を収集した。これらについて得られなかった事例については分析から除外した（これらの高校の中にも、「総合

また、2018年要領解説 農業編では、「資格の取得だけを最終的な目標として捉えず、これまでの学習の深化、総合化の一環として位置付けるとともに、資格に関連する分野の総合的、発展的な学習を促し、その過程を通して自発性や創造性を培い、進路目標を明確にすることが大切である。」（31ページ）と、職業資格取得の場合も「課題研究」の目標を踏まえることを求めている。

³⁰ 福島健郎（文部省 職業教育課長）「「総合的な学習の時間」と「課題研究」の関係について」『産業教育』第49巻第6号、1999年、15ページ。

³¹ 当時の調査では、商業高校の「課題研究」の「課題内容別受講生徒数」の「職業資格の取得」の割合が55.2%という結果もあった。（全国商業高等学校長協会「社会の変化や産業の動向に対応した商業教育の在り方」（平成11年5月）での報告（白鳥政男（全国商業高等学校長協会 理事長）「専門高校における総合的な学習の時間の工夫」『産業教育』第49巻第10号、1999年、5ページ。）

³² 佐藤琢磨（北海道奈井江商業高等学校）「「総合的な学習の時間」に結びつく実践例—奈井江商業高校の取り組み—」『全国商業教育研究協議会年報』2002年、50ページ。

³³ 北海道遠別農業高等学校「平成31年度学年別教育課程表」「31-12年間指導計画__課題研究（探究）」（http://www.enbetsunougyou.hokkaido-c.ed.jp/?action=cabinet_action_main_download&block_id=533&room_id=11&cabinet_id=7&file_id=25&upload_id=637）。

³⁴ 全国農業高等学校長協会「校長協会会員名簿」（<http://www.zennokocyoikai.org/activity/member/>）、全国工業高等学校長協会「会員校 学校番号・ホームページ一覧」（https://zenkoukyo.or.jp/index_info/member_school/）、全国商業高等学校長協会「会員校一覧」<http://www.zensho.or.jp/pa/aboutus/data.html>）。

³⁵ 例えば、北海道静内農業高等学校では、平成29年度入学者の場合、「総合的な学習」は3年次1単位のみだが、平成30年度入学者は、各学年1単位となっているなど、教育課程の変更もあり得るが、一部の学校にとどまるかと思われる。

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、「課題研究」による代替措置（市山）

的な学習」を設置しているところもある)。さらに、可能な限り、普通教科、専門教科の各科目の総単位数のデータも収集した（一部計算困難な事例もあった）。単位数の計算についての方針は注³⁶を参照。

農業高校は75件、工業高校は132件、商業高校は112件のデータを得られた。文部科学省の「平成30年度学校基本調査」³⁷によると、公立の単独校（全日制）は、農業高校118校、工業高校249校、商業高校159校であり、それぞれ、およそ63%、53%、70%のデータを得られたこととなる。

商業科と普通科の併設校については158校のうち、82件のデータを入手した。商業科と他の専門学科の併設校については、82校のうち、50校のデータを入手した。

なお、各校の教育課程表の出典については校数が多く煩瑣となるため、校名及びURLは割愛させていただく。

4. 分析の結果

4. 1. 「総合的な学習」の設置状況と単位数

表6：学校別の「総合的な学習」の設置と「代替措置」の状況（学校数と割合）

（以下、表中では、農業高校を「農業」というように略記する。）

	農業	工業	商業
なし（課題研究で全て代替） ³⁸	55(73%)	105(80%)	61(54%)
1・2単位（課題研究で一部代替）	14(19%)	25(19%)	39(35%)
3単位以上（「代替措置」の必要なし）	6(8%)	2(2%)	12(11%)
合計	75(100%)	132(100%)	112(100%)

表7：学校別の「総合的な学習」の単位数の状況（学校数と割合）

	農業	工業	商業
なし	55(73%)	105(80%)	61(54%)
1単位	13(17%)	25(19%)	33(29%)
2単位 ³⁹	1(1%)	0(0%)	6(5%)
3単位	6(8%)	2(2%)	11(10%)
4単位以上	0(0%)	0(0%)	1(1%) ⁴⁰
合計	75(100%)	132(100%)	112(100%)

³⁶ ・農業科の「総合実習」の時間割外の実習は、単位数に含めていない。

- ・例えば東京都立の高校の「人間と社会」、学校設定科目の「キャリアガイダンス」などの科目は、普通教科の単位数に算入しなかった。
- ・農業科で商業科の科目を履修する場合などの単位も、普通教科の単位数に入れた。
- ・ホームルームは単位数に入れていない。
- ・総単位数は、普通教科・専門教科、及び、普通教科と専門教科にまたがる選択科目の単位、上述の「人間と社会」や「キャリアガイダンス」なども含まれる。
- ・科目の選択によって総単位数が異なる場合は、最低の単位数とした。
- ・小学科について単位数などに違いがある場合は、各大学科で最も典型的だと思われる小学科を採った。例えば、商業科であれば、会計科や情報処理科ではなく、商業科や総合ビジネス科などを採った。
- ・進学コースがある学校の場合は、それ以外のコースを採った。
- ・ほとんどの学校で、教科情報科の科目については、「農業情報処理」（農）、「情報技術基礎」（工）、「情報処理」（商）で代替されているため、専門教科の単位として計上されている。

³⁷ 「都道府県別学科数（本科）」（e-statウェブサイトより）。

³⁸ 文部科学省調査における、「特例等」による代替の割合は、表1、表2を参照。

³⁹ 以下の分析では、「2単位」は数が少ないため、「2・3単位」として分析する。

⁴⁰ 静岡県立袋井商業高校の6単位（第4章第6節参照）。

商業高校では、「総合的な学習」を設置する割合が高く、また、3単位以上設置している高校も少なくない。工業高校は「総合的な学習」の設置は少なく、特に、3単位以上設置している高校は少なく、また、「総合的な学習」を設置する場合も、1単位がほとんどを占めている。

第1章第2節で述べたとおり、文部科学省調査ではカテゴリーのなかった「1単位」が、「総合的な学習」を設置している事例のうち、かなりの割合を占めている。

4. 2. 「課題研究」と「総合的な学習」の関係

表8：学校別の「課題研究」（課題）の単位数と「総合的な学習」（総合）の単位数の状況（学校数と割合）

課題＋総合の単位数	内訳（）内は単位数	農業	工業	商業
2単位	課題(2)			2 (2%) ⁴¹
3単位	課題(3)	22(29%)	97(73%)	53(47%)
	課題(2)＋総合(1)	4 (5%)	12(9%)	23(21%)
	総合(3)			1 (1%) ⁴²
4単位以上	課題(4以上)	33(44%)	8 (6%)	6 (5%)
	課題(3以上)＋(総合1以上)	15(20%)	14(11%)	18(16%)
	課題(2)＋総合(2以上)	1 (1%)	1 (1%)	9 (8%)
全体		75(100%)	132(100%)	112(100%)

全体としては、課題研究が3単位で「総合的な学習」なし（全て「代替措置」）というところが多くを占めている。「課題研究」が3単位あれば、「総合的な学習」（標準単位数の最低が3単位）の設置を回避できる。「総合的な学習」が実施される前の時代の調査では、商業科の「課題研究」の単位数は、「2単位は79.2%、3単位は9.4%」との結果もあるが⁴³、本調査では、商業科の「課題研究」の単位数は、2単位26%、3単位57%である。ここから考えると、専門高校の「課題研究」の単位数は、「総合的な学習」の実施前は2単位で、「総合的な学習」導入後、教育課程改定で3単位となった高校が多いのではないかという仮説が立てられるが、その検証は今後の課題としたい。

また、「課題研究」2単位と「総合的な学習」1単位という最低単位数ですむ組み合わせも、課題研究3単位以上＋「総合的な学習」1単位以上という、最低単位数を上回る組み合わせも、割合としては大きな差はない。全体的な傾向としては、「総合的な学習」を設置する場合でも、それとは別に、「課題研究」の時間は十分に確保しなければならないと考える高校が多いと考えられる。

「総合的な学習」を2単位以上設置する高校は、「課題研究」は2単位あるいは3単位にとどまる傾向がある。特に商業高校には、「課題研究」は最低の2単位で「総合的な学習」は2単位以上という学校も少数だが見られる。

また、農業高校は、「総合的な学習」の設置状況と課題研究の単位数との相関は特に見られない。

授業時間数を考えると、「課題研究」＋「総合的な学習」で多くの単位数を確保するのは難しい。そこで、総単位数など学校の教育課程全体と「総合的な学習」の時間数の関係を次に考えたい。

⁴¹ 2009年要領の規定では（2018年要領も同様）、「総合的な学習」について「特に必要がある場合には、その単位数を2単位にすることができる」と規定されている。しかし、「代替措置」についてもそれが適用されるかについては記述がないようだ。「総合的な学習」設置当時の見解として「課題研究等によって総合的な学習の全部を代替しようとすれば最低3単位以上履修させる必要がある」というものもある（福島、前掲論文、15ページ）。また、同様な代替措置を取る、教科情報科の科目については、例えば農業科では「農業情報処理」により「社会と情報」を「全部代替する場合、「農業情報処理」の履修単位数は、2単位以上必要であることは言うまでもない。」とされ、単位上の規定がある（2009年要領解説 農業編、155ページ）。

⁴² 第2章第4節で述べたとおり、「総合的な学習」による「課題研究」の代替（秋田市立秋田商業高等学校）。

⁴³ 白鳥 前掲論文、5ページ。

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、「課題研究」による代替措置（市山）

4. 3. 総単位数・専門教科の単位数・普通教科の単位数と、「総合的な学習」の関係

総単位数と「総合的な学習」の設置の有無および単位数との関係は、以下の表のとおりである。

表 9：総授業単位数（総単位）と「総合的な学習」の単位数（総合）の状況（学校数と割合）（農業）⁴⁴

総単位 \ 総合	なし	1 単位	2 単位以上	総計
87 以下	22(76%)	4(14%)	3(10%)	29(100%)
88~90	20(74%)	5(19%)	2(7%)	27(100%)
91 以上	8(57%)	4(29%)	2(14%)	14(100%)
全体	50(71%)	13(19%)	7(10%)	70(100%)

表 10：同（工業）

総単位 \ 総合	なし	1 単位	2 単位以上	総計
87 以下	79(77%)	22(22%)	1(1%)	102(100%)
88~90	11(85%)	2(15%)	0(0%)	13(100%)
91 以上	3(75%)	0(0%)	1(25%)	4(100%)
全体	93(78%)	24(20%)	2(2%)	119(100%)

表 11：同（商業）

総単位 \ 総合	なし	1 単位	2 単位以上	総計
87 以下	39(53%)	27(37%)	7(10%)	73(100%)
88~90	14(56%)	5(20%)	6(24%)	25(100%)
91 以上	4(40%)	1(10%)	5(50%)	10(100%)
全体	57(53%)	33(31%)	18(17%)	108(100%)

農業高校の場合は、「総合的な学習」を設置する割合は、総単位数が多いほど高くなる。商業高校の場合は、2 単位以上「総合的な学習」を設置する割合は、総単位数が多いほど高くなる。工業高校については、総単位数の差があまりないため、十分な分析はできなかった。ただ、工業高校は総単位数が 87 単位以下の学校が多いことも、「総合的な学習」が少ない理由として考えられる。

表には掲載しなかったが、さらに詳細にみると、工業高校では、「課題研究」2 単位＋「総合的な学習」1 単位の学校 12 校のうち、総単位数 87 以下の学校が 11 校を占める。商業高校では、同じく 23 校のうち、18 校を占めるなど、総単位数が少ない学校は、「課題研究」と「総合的な学習」を最低限の単位数で運営する傾向がある。

先行研究では、「同校（高知県立高知海洋高等学校－引用者）が総合学習を課題研究で全て代替した理由」の一つとして、「学校 5 日制で授業時間が減り総合学習を導入する時間設定が難しいこと」が挙げられているが⁴⁵、限られた単位数で、「課題研究」と「総合的な学習」を両立させるのには困難が伴うといえるのだろう。

⁴⁴ 総単位数の計算ができなかった事例は除外している。そのため「総計」の数は表 6、表 7 とずれが生じている。また、「総単位数」が「87 以下」のうちほとんどが、87 単位である。

⁴⁵ 川下新次郎「専門高校（水産・海洋系高校）における総合学習について－職業教育と普通教育の統合の観点から－」『東京海洋大学研究報告』第 1 巻、2005 年、122 ページ。

表 12：専門教科の科目の総単位数（総単位）と「総合的な学習」の設置の状況（学校数と割合）⁴⁶

農業		工業		商業	
総単位	設置状況	総単位	設置状況	総単位	設置状況
24～28	2/6(33%)	25～29	3/6(50%)	22～25	7/13(54%)
29～32	7/25(28%)	30～33	9/37(24%)	26～28	11/21(52%)
33～36	7/21(33%)	34～37	10/49(20%)	29～31	19/35(54%)
37～40	4/12(33%)	38～41	4/22(18%)	32～35	12/29(41%)
41～50	0/6 (0%)	42～46	0/5 (0%)	36～39	2/10(20%)

表 13：普通教科の科目の総単位数（総単位）と「総合的な学習」の設置の状況（学校数と割合）

農業		工業		商業	
総単位	設置状況	総単位	設置状況	総単位	設置状況
41～45	1/5(20%)	39～43	0/8 (0%)	46～49	3/10(30%)
46～48	6/22(27%)	44～46	5/27(19%)	50～52	14/28(50%)
49～51	7/21(33%)	47～49	14/51(27%)	53～55	24/48(50%)
52～53	5/18(28%)	50～53	5/29(17%)	56～58	7/17(41%)
55～66	1/4(25%)	54～58	2/4(50%)	60～65	3/5(60%)

学科によって違いはあるが、専門教科の科目の単位数が多い高校は、「総合的な学習」の設置率が低くなる傾向がある。農業高校以外は、普通教科の単位数が少ない学校では「総合的な学習」の設置率が低く、多い学校では設置率が高い。このことから考えると、やはり「総合的な学習」は専門教育より普通教育に親和的とも考えることもできるだろう。このことは、専門教育に力を入れていけば、「総合的な学習」を設置せずに、「代替措置」を取ると考えると当然のことかもしれない。ただし、学校によっては、「総合的な学習」といっても、かなり専門教科の内容に近いものもあり⁴⁷、一概に判断はできない。

4. 4. 学科の設置形態による「総合的な学習」の設置状況－商業科を事例に

ここでは、本調査で「総合的な学習」の設置率が高かった商業科について、単独校（商業高校）か他学科併設校かによって、「総合的な学習」の設置率に違いがあるかについて、分析を行う。

表 14：商業科の設置形態別の「総合的な学習」の設置と「代替措置」の状況（学校数と割合）

	単独校	普通科併設校	他の専門学科との併設校
なし（課題研究で全て代替）	61(54%)	26(32%)	38(76%)
1・2単位（課題研究で一部代替）	39(35%)	22(27%)	10(20%)
3単位以上（代替措置の必要なし）	12(11%)	34(41%)	2 (4%)
合計	112(100%)	82(100%)	50(100%)

⁴⁶ 表中に

24～28	2/6(33%)
-------	----------

 とあるのは、総単位数が24～28の学校が6校あるうち、2校で「総合的な学習」が設置され、6校中2校で33%であることを示している（以下の表も同様）。

⁴⁷ 例えば、商業科では、模擬会社の運営を「総合的な学習」で行う例もある（第4章第6節参照）。

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、「課題研究」による代替措置（市山）

表 15：商業科の設置形態別の「総合的な学習」の設置および単位数の状況（学校数と割合）

	単独校	普通科併設校	他の専門学科との併設校
なし	61(54%)	26(32%)	40(80%)
1 単位	33(29%)	15(18%)	10(20%)
2 単位	6 (5%)	7 (9%)	—
3 単位	12(11%)	34(41%)	2 (4%)
合計	112(100%)	82(100%)	50(100%)

単独校か普通科併設校かによって、「総合的な学習」の設置状況は大きく異なる。普通科併設校の場合、「総合的な学習」を設置しない例の方がむしろ少なく、設置する場合は 3 単位設置することが多い。他の専門学科を併設している場合は、逆に、「総合的な学習」の設置率は低く、工業高校・農業高校と同等の設置率となる⁴⁸。

普通科併設校の場合、普通科は「総合的な学習」が必修なので、「総合的な学習」を設置しやすい環境にある。複数の学科を有するという理由（例えば、学科横断的な取り組みを推進する⁴⁹という理由）で設置するというよりも、普通科併設校のように「総合的な学習」を設置しやすい状況であれば、設置率が上昇するといえるのではないかと。

表 16：商業科の設置形態別の「課題研究」（課題）の単位数と「総合的な学習」（総合）の単位数の状況（学校数と割合）

課題＋総合の単位数	内訳（）内は単位数	単独校（再掲）	普通科併設校	他の専門学科併設校
2 単位	課題(2)	2 (2%)	—	—
3 単位	課題(3)	53(47%)	20(24%)	27(54%)
	課題(2)＋総合(1)	23(21%)	11(13%)	4 (8%)
	総合(3)	1 (1%)	—	1 (2%)
4 単位以上	課題(4 以上)	6 (5%)	6 (7%)	11(22%)
	課題(3 以上)＋(総合 1 以上)	18(16%)	32(39%)	6(12%)
	課題(2)＋総合(2 以上)	9 (8%)	13(16%)	1 (2%)
全体		112(100%)	82(100%)	50(100%)

普通科併設校は、「総合的な学習」の単位も多いが、その一方で、「課題研究」の単位も多いという結果が出て、特に課題研究の代替として総合的な学習を位置付けているわけではないと考えられる。一方で、他の専門学科併設校は、「課題研究」の単位数が多い傾向がある。

⁴⁸ 同じ高校でも、商業系の学科では「総合的な学習」を設置していても、工業系の学科では「総合的な学習」が設置されていない例が 2 件、あるいは、商業系の学科では 3 単位「総合的な学習」を設置していても、同じ高校の工業系の学科では 1 単位などの事例が 1 件ある。このように、同じ高校の専門学科でも、学科によって「総合的な学習」の方針が異なることがある。

⁴⁹ ただし、神奈川県立商工高等学校の「総合的な学習」（名称は「ものづくりとビジネス」）では、「ものづくりとビジネス体験学習発表」で、「総合ビジネス科、総合技術科が普段学習している内容を相互に教え合い体験する」という学習活動を行う（「お知らせ（平成 29 年度）」<https://shoko-h.pen-kanagawa.ed.jp/osirase2017.html>）など、学科横断的な取り組みも見られる。

4. 5. 「総合的な学習」の履修年次

表 17: 学校ごとの「総合的な学習」履修年次の状況 (学校数と割合)

	履修年次 () は総単位数	農業	工業	商業	文科省調査 (参考) ⁵⁰
単学年	1年次(1)	7(35%)	17(63%)	10(20%)	2.6%
	2年次(1)	4(20%)	8(30%)	19(37%)	1.7%
	3年次(1)	2(10%)	—	4(8%)	11.4%
2つの 学年	1年次1単位、2年次1単位(2)	1(5%)	—	4(8%)	7.0%
	1年次2単位、2年次1単位(3)	—	1(4%)	—	
	2年次1単位、3年次1単位(2)	—	—	2(4%)	9.6%
全学年	各学年1単位(3)	6(30%)	1(4%)	11(22%)	60.5%
	各学年2単位(6)	—	—	1(2%)	
合計		20(100%)	27(100%)	51(100%)	100%

「総合的な学習」の履修学年は、農業高校では、1年次のみと全学年が多く、工業では1年次のみが多く、商業では、2年次のみが多い。全体としては、1年次のみ、2年次のみ、全学年が多くなっていて、文部科学省調査とは大きく傾向が異なる。

第2章第2節で述べたように「課題研究」は、「卒業年次で履修させることが望ましい」と規定されている。全日制であれば3年次となる。本研究でも、課題研究を3年次だけに履修する学校は、農業高校で49%（農業高校では、2年次と3年次に「課題研究」を履修する学校も多い）、工業高校で97%、商業高校で87%となっている。一方、総合的な学習は、普通科では全学年で実施するのが通例（87%）となっている⁵¹。そのため、「課題研究」≡「総合的な学習」的な内容を、1・2年次（「課題研究」を含めて全学年）で行おうとすれば、「総合的な学習」を設置するのが望ましいという事になるが、実際にそのような傾向が見られる。

4. 6. 履修学年ごとの「総合的な学習」の特徴の一端

専門高校の「総合的な学習」の実践の検討は、次の研究の課題であるが、ここでは、学年ごとの「総合的な学習」のうちで、特徴的な実践をいくつか取り上げることとする。

○全学年で履修の例

静岡県立袋井商業高等学校の「総合的な学習」（名称「袋商ショップ」（各学年2単位履修））では、「1年生から3年生までの生徒が社員となって株式会社「袋商ショップ」を運営しています。入学式の後に入社式を行い、全新生徒が社員としてスタートを切りました。」と説明されている⁵²。秋田市立秋田商業高等学校の「総合的な学習」も同様に、「本校では、平成14年度から総合的な学習の時間を活用し、全校生徒が「ビジネス実践学習」を行っている。「ビジネス実践」は学校全体を模擬会社に見立て商品開発や販売、地域貢献活動などを行いながらビジネスを体験的に学ぶ活動である。」と説明されている⁵³。他にも「総合的な学習」で模擬会社の店舗経営を行うのは、新潟県立高田商業高等学校の「Rikka」⁵⁴や、広島市立商業高等学校の「広島市商ピースデパート」⁵⁵などの取り組みがある。

⁵⁰ 表1の「学年別の実施状況」の各%を、「総合的な学習」実施の総計（「小計」）の%で除した数値。例えば、「全学年で実施」の13.8%を「小計」（いずれかの学年で実施）の22.8%で除し、「総合的な学習」を実施している学校の中で「全学年で実施」している学校の割合を求めた。他に、本調査では見られなかったが「1・3年で実施」の6.6%がある。

⁵¹ 文部科学省「平成27年度公立高等学校における教育課程の編成・実施状況調査の結果について」（URLは注6参照）。

⁵² 「袋商ショップウェブサイト」（<http://www.fukusho-shop.com/index.html>）。

⁵³ 櫻庭咲子（同校商業科教員）「ビジネス実践『AKISHOP』」同校平成28年度『研修集録』第31号、55ページ。

⁵⁴ 同校「学校紹介」（<http://www.takadas-h.nein.ed.jp/introduction.html>）。

⁵⁵ 同校「平成27年度 総合的な学習の時間 全体計画」（<http://www.hiroshima-syogyo-h.edu.city.hiroshima.jp/pdf-file/2015/27sougouzenntai.pdf>）。

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、「課題研究」による代替措置（市山）

これらの活動は、全校を挙げての取り組みであり、全学年の教育活動として取り組まれるため、「課題研究」よりは、「総合的な学習」が適格的であるということになる。ただ、同様の取り組みを、学校設定科目で行う高校もある。長野商業高等学校の「長商デパート」（科目名も「長商デパート」で各年次1単位）⁵⁶等の例がある。

○2年次で履修の例

2年次に「総合的な学習」を履修する山口県立南陽工業高等学校では、「まず、生徒が自己の在り方生き方をしっかりと考え、自らが将来設計にかかわる課題を見付け出し、自主的な課題解決を目指した「課題研究」を行うことが重要であると考えた。したがって、生徒にとっては将来生きていくであろう産業社会と自分たちとのかかわりを考えることが「課題研究」の充実につながるとの立場から」「総合的な学習」の目標を定めている⁵⁷。このように、2年次の「総合的な学習」を3年次の「課題研究」につなげていく構想が見られる。

○1年次での履修の例

初年次での学習の基礎的教育を意識した実践が見られる、例えば、新潟県立加茂農林高等学校では、1年次の「総合的な学習」で、「学びのレディネス形成」として、

「学び方ガイドブック」には、学校行事、資格取得、定期テスト等の日程を記入し、スケジュールを管理する力を養う。また、このガイドブックにある「夢・目標達成シート」、「ルーティン行動チェック表」、「日誌」等を記入することでRPDCAサイクルを意識させ、目標達成に向け常に試行し、忍耐強く行動する力とメタ認知能力を育成する。

信頼関係を作るピア・サポート・トレーニングを実施し、協働性の力のレディネス形成を図る。

ことを意図している⁵⁸。

他にも、福岡県立小倉商業高等学校では、「早期段階における進路意識醸成」を意図した実践を行い⁵⁹、山口県立小野田工業高等学校では、1年次の「総合的な学習」で、2年次からのコースの選択の指導を行っている⁶⁰。

○3年次で履修の例

多くの高校で、「課題研究」が3年次に履修されているため、3年次に「総合的な学習」を設定する学校は少ない。その中で、東京都立荒川商業高等学校では、3年次の「総合的な学習」（名称は「進路実現の時間」）で、「就職シミュレーション」として、求人票閲覧、会社選び、求人票記入、面接動機、履歴書記入、面接シート、模擬面接などの学習を行い、「進路実現のための具体的な作業を行う中で社会人としての在り方を考える」というのを目標の一つとして掲げている⁶¹。

4. 7. 県による「総合的な学習」の設置率の違い

県の教育政策によって、「総合的な学習」の設置状況に違いが生じることも考えられる。例えば、茨城県では、「すべての県立高等学校において、第1学年（年次）の全生徒に、「総合的な学習の時間」で「道徳」を1単位（35単位時間）行う。名称は「道徳」とする」と規定され⁶²、2007年より、全ての県立高校で実施されている。

以下、県ごとの「総合的な学習」設置状況を示す。農・工・商を合わせたものとし、データ件数が5件以上の県のみを取り上げ、「総合的な学習」実施率の高い順に並べた。

⁵⁶ 同校「商業科目の教科学習について」（https://www.nagano-c.ed.jp/chosho/gakkouannai/gakka/chosho_pr2018.pdf）。

⁵⁷ 神原真「南陽工業高等学校総合的な学習の時間解説書」やまぐち総合教育支援センター『研究紀要』第142集（高等学校における総合的な学習の時間に関する研究 ―特色ある学習活動の展開について―）、51ページ。

⁵⁸ 同校「平成30年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業計画書」（文部科学省ウェブサイト、http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2019/02/28/1395589_16.pdf）。

⁵⁹ 福岡県教育センター「ふくおかAL通信 ～県立学校の教室から～」第1号、2017年。（福岡県教育センターウェブサイト、http://www.educ.pref.fukuoka.jp/static/新たな学びプロジェクト/up_86B3KXYTH29report_3_3.pdf）。

⁶⁰ 同校「平成31年度入学生用学校案内」（<http://www.onoda-t.ysn21.jp/guidance/18guide.pdf>）。

⁶¹ 同校「平成30年度年間授業計画」（<http://www.arakawashogyo-h.metro.tokyo.jp/arazen/image/guidance/sogo.pdf>）。

⁶² 「県立高等学校における「道徳」の履修について」（茨城県教育委員会ウェブサイト、<https://www.edu.pref.iba-raki.jp/kokoro/doutoku/contents/doutoku1-1-2.pdf>）。

表 18：県ごとの「総合的な学習」の設置校数と設置率

県	設置校数と設置率	県	設置校数と設置率	県	設置校数と設置率
茨城	11/11(100%)	佐賀	2/6 (33%)	群馬	1/5 (20%)
岡山	8/8(100%)	新潟	4/14 (29%)	神奈川	2/10 (20%)
山口	6/7 (86%)	広島	2/7 (29%)	静岡	1/5 (20%)
秋田	4/6 (67%)	山形	2/8 (25%)	鹿児島	2/11 (18%)
北海道	9/20 (45%)	大阪	3/12 (25%)	島根	1/6 (17%)
宮城	4/10 (40%)	東京	5/21 (24%)	長崎	1/7 (14%)
石川	2/5 (40%)	埼玉	3/13 (23%)	兵庫	1/8 (13%)
千葉	3/8 (38%)	福岡	3/13 (23%)	長野	0/9 (0%)
岩手	2/6 (33%)	青森	2/9 (22%)	沖縄	0/15 (0%)
愛媛	2/6 (33%)	福島	2/10 (20%)		

明らかに、県によって違いが表れているといえる。県によっては、「総合的な学習」の設置率が 100%のところもあれば、0%のところもある。それが何によるものなのかについては明らかにできなかった。今後のさらなる検討が必要となる。

5. 結論と今後の課題

学習指導要領には、条件付きながら、専門学科は「課題研究」によって「総合的な学習」を代替できる規定がある。過半数の専門高校は、この「代替措置」により「総合的な学習」を設置していない。一方で、「代替措置」を用いず、3単位以上「総合的な学習」を設置する高校や、一部代替の上、1単位「総合的な学習」を設置する学校もある⁶³。ただし、後者の方が多い。商業高校は、農業高校、工業高校より、「総合的な学習」を設置する学校が多い傾向にある。また、「総合的な学習」を設置する学校でも、それと別に「課題研究」を3単位以上設置する学校も少なくない。

また、以下のような傾向が見られた。

- 総単位数が多い学校ほど、「総合的な学習」を設置する傾向にあるが、総単位数が少ない学校でも一部には「総合的な学習」を設置する学校がある。
- 商業科の場合、普通科併設校、商業科単独校、他の専門学科との併設校の順で、「総合的な学習」の設置率が高い。
- 3年次に履修されることが多い「課題研究」に対し、「総合的な学習」を1単位設置する場合は、1・2年次に履修されることが多い。また全学年に配置されている場合は、全学年が参加する学習活動が設定されている場合がある。
- 県によって、専門高校に「総合的な学習」を設置するかどうかには、大きな差が見られる。

本論文は、単位数という非常に形式的な面からのみ、専門高校における「総合的な学習」を分析したにとどまる。ただ、限られた授業時間数を割いて、「課題研究」と「総合的な学習」の両方を推し進めている高校は少なくない。それは、学校の熱意がなければ実現しない教育課程だと考えられる。そのような高校の、「総合的な探究」の具体的な実践を分析し、その意義を明らかにすることが今後求められる。

本論文では、「総合的な学習」と「課題研究」を対比的に論じてきたが、両者を一貫してとらえている学校もある。新潟県立長岡農業高等学校では、「総合的な学習 目標：学習活動を通して自己の在り方・生き方を探究し、よりよい自己実現を目指します」として、以下の表を挙げている（「内容」は省略）⁶⁴。

⁶³ なお、3時間すべて課題研究により代替する理由として「週1時間の総合学習の成果への疑問」を挙げる高校もある（川下、前掲論文、122ページ）。この点についても、さらなる検討が必要である。

⁶⁴ 同校「ハイスクールガイド」（<http://www.nagaokan-h.nein.ed.jp/10-highschoolguide/10-3highschoolguide/10-3highschoolguide2019.pdf>）

専門高校における「総合的な学習（探究）の時間」の設置状況と、「課題研究」による代替措置（市山）

	学習プログラム
1 学年	キャリアプランニング
2 学年	インターンシップ
3 学年	課題研究

これは、「課題研究」を「総合的な学習」の枠の中に位置付けて、一貫した教育を行っていかうという姿勢の表れと思われる。このように、「課題研究」と「総合的な学習」の両者を通じてどのような教育を目指しているかを考察していくのも今後の課題となる。

謝辞

本研究では、各高等学校ウェブサイト掲載の教育課程表、その他の情報を参照させていただきました。各高等学校のウェブサイトの運営にあたっている教職員の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。

注記：各学校の公式ウェブサイトから引用した場合は、ウェブサイト名を記さず、URLのみとした。

参照したウェブサイトは、2019年9月・10月に閲覧した。

